

FUJIEDA ROTARY CLUB
藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑
 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300
 FAX：054-647-2040
 E-mail：club1972@fujieda-rotary.org



**ROTARY
SERVING
HUMANITY**

2016-2017年度 R1テーマ
人類に奉仕するロータリー

会長:鈴木 舜光 副会長:大長 昭子 幹事:島村 武慶 副幹事:大塚 高弘

第2151回 4クラブ合同例会 / 小杉苑
 ♪ソング…君が代・奉仕の理想 ♪ソングリーダー…杉山 茂範君(藤枝南RC)

■ **会長報告** 藤枝南RC 山田 壽久会長

本日は、2620地区・4クラブ合同の2016～17ガバナー公式訪問・会長幹事会並びに4クラブ合同例会に、藤枝・島



田・榛南・藤枝南各ロータリークラブの多数のメンバーの皆さんにご出席をいただき、盛大に合同例会が開催できます事を御礼申し上げます。

本日は、2620地区生子ガバナー様・朝比奈ガバナー補佐様・渡邊地区幹事様・田島ロータリーアクト委員長様そして渡邊事務局長にご来藤いただき、誠にありがとうございました。会長幹事会では、早朝より各クラブの会員増強の状況や、各種の寄付についての細かいご指導をいただきました。また、2016年規定審議会におけるクラブ運営に関する大幅な柔軟性について、細かいご説明とご指導をいただきました。ロータリー設立100周年を間近にひかえ、創立当初の状況とは世の中も大きく変化しており、時代に合わせたロータリー運営の必要性を4クラブとも感じた会長幹事会であったと思います。これからのガバナーのご指導のもと、健全なクラブ運営に心がける所存でございますので、よろしくお願ひ申し上げます。また、来年の3月26日には、私ども藤枝南ロータリークラブがホストクラブとして、インターシティーミーティングがこの小杉苑において開催予定されております。実行委員会による万全な体制で、皆様をお迎えする所存でございます。たくさんのロータリアンのご参加をお待ちしております。

本日は貴重な会長幹事会並びに4クラブ合同の例会が出来ました事を、重ねて御礼申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

■ **出席報告**

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
35/42 76.08%	33/42 78.57%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 大石君 ○大杉君 ○櫻井君 ○大長君
- 仲田晃君 ○村松繁君 ○柳原君

(2)メイクアップ者

- 大石 英典君(榛南) 鈴木 透君(焼津南)

(3)4クラブ合同例会総出席人数

島田RC	39名	
榛南RC	23名	
藤枝RC	31名	
藤枝南RC	36名	計129名

■ **ビジター**

国際ロータリー2620地区

生子 哲男ガバナー(清水中央)

渡邊 英昭地区幹事

国際ロータリー2620地区第5分区分

朝比奈 潔ガバナー補佐(藤枝南)

渡邊 芳隆事務局長(藤枝南)

北川 正澄会長(島田) 鷺坂 純生幹事(島田)

植田 進会長(榛南) 榎田 中外幹事(榛南)

山田 壽久会長(藤枝南) 渡邊 博文幹事(藤枝南)

■ ガバナー挨拶

国際ロータリー2620 地区

生子 哲男ガバナー（清水中央RC）



2016年1月16～24日の1週間米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された国際協議会に出席してきました。本会議10回、晚餐会2回、アイデア交換6回、ワークショップ4回、のスケジュールで毎日朝8時30分から夜9時過ぎまで、ロータリーの精神や考え方話し方、特にロータリーモーメントでは限られた時間内にいかに相手に伝えるかなど、いろいろなテーマでディスカッションしました。2016～2017年度RI ジョンF・ジャーム会長は、世界200ヶ国以上535地区（日本は34）のガバナーエレクトとその配偶者、RI役員とその配偶者を含め、約1500名が「マンチェスターグランドハイヤット」に集結し、この国際協議会で次年度のテーマを発表しました。

「人類に奉仕する ロータリー」

ROTARY SERVING HUMANITY

ロータリーの一員である皆さんは、ロータリー活動を通じて社会に貢献し人類に奉仕する「大きなチャンス」である。そしてまた、社会貢献への熱意を持つ職業人が集うロータリーですから、ロータリー独自の力を生かせば大きな目標も達成でき、発展途上地域におけるきれいな水の提供、紛争地域での平和推進、基本的教育と識字率向上、など世界の中のロータリアンは様々な奉仕活動を行っています。その中でも特に重要なのがあと少しと言われているポリオの撲滅であると強調しました。さらに、ジョンF・ジャーム会長は会員増強に関しても最優先項目としております。私も今年度の地区の目標に最優先項目として、事あるごとにお話しをさせて頂いております。なぜ会員増強と毎年言われ続けなければならないのか良く考えてみましょう。会員を絶えず増強していなければ会員数は自然に減少してしまいます。そして、今の貴方が所属

しているクラブの3年、5年、10年後を考えてみて下さい。特に平均年齢の高いクラブは深刻です。若返りが必要です。これを実行するには会員増強しかありません。ジョンF・ジャーム会長は、「ロータリーがさらに前進するには意欲と思いやりと知恵にあふれた人たちがもっと必要」、そして「40歳以前の若い人、女性、退職後間もない人、現役で働いている人達がロータリーに入会したくなるような柔軟性のあるクラブが必要」だと言っています。この10年間 世界のロータリアンの数は120万人の横這いです。これは、何を意味するのでしょうか。この10年間入会したのと同数のロータリアンが退会してる事になるのではないのでしょうか。どうしたら退会をなくす（減らす）ことが出来るのでしょうか。会員からのフィードバックを基にクラブで会員増強計画を立てて、入会者にとって魅力あるクラブを作り、会員の所属意識を高める方法を会員増強計画に柔軟に取り込んで行くことが重要です。そして、クラブの会員が増えればもっと効果的で、より多くの活動が出来るという事をロータリアンに再認識してもらうことが重要です。2016年6月末の日本のロータリアンの数は89,756名です。そして、次に来る重要項目は、ロータリー財団への寄付と補助金への積極的活用です。1917年アトランタ国際大会で当時のアーチ・クランプ会長の提案でロータリー財団の種がまかれ、その時の寄付額が\$26,50でした。「世界でよいことをする」を掲げ、今年で財団100周年です。現在の財団には2億6千900万ドルの寄付があります。年次寄付、恒久基金（ベネファクター）、大口寄付（メジャードナー）使途指定寄付等がありますが、年次基金（年次寄付）はロータリー財団活動の主な資金源です。毎年続ける寄付で3年後に50%が地区活動資金（DDF）として地区の裁量の下使用される。恒久基金は将来のロータリー財団プログラムの財源で、元金を使わず投資利益のみを使用（ベネファクターがこれに該当する）、年次基金の平均金額 \$150 を目標、ベネファクター各クラブ1名。次はポリオ撲滅ですが、2580地区の山田つねさんと2750地区峰英二さんの両ロータリアンがロータリーのポリオプラスの為に身を挺して尽力された。この事によりRIにポリオ撲滅運動が提唱され（1986年）これが国際ロータリーの運動として発展したもの。2016年1月から8月24日迄でパキスタン13症例、アフガニスタン6症例となり、ナイジェリアが2症例と、パキスタンと

ナイジェリア共に2 症例と、6 月迄より増えましたが、あと少しです。今年はポリオ撲滅において非常に重要な年になります。伊勢志摩サミットのG7 でポリオ撲滅の目標達成について再認識されました。次は日本独自の「米山記念奨学会」への理解と支援です。普通寄付と特別寄付があり金額の合算合計平均 16,000 円（1 人/ 年間）をお願いしていますが「普通寄付」は日本の全てのロータリークラブからの寄付で、定款に基づきクラブで決定した金額の会員数分を半期に一度クラブを通じて納入する。「特別寄付」は個人、法人、ロータリークラブから普通寄付以外に任意で寄付されるもので金額も時期も問わない。ロータリー外からも受け付ける。今年は、米山「サブクラブ」制度を取り入れます。今まで米山奨学生を一度も受け入れてないクラブの理解を深めるために行います。

ロータリーの公共イメージ向上

世界中で行っている奉仕活動を地域社会で理解してもらい、ロータリーの奉仕活動を地域社会に知ってもらうことが重要で、メディアの活用です。本年はFMラジオ清水のマリンパルでロータリーのPR、地区ホームページの広報、IT 推進委員会の所をクリックすれば聞くことができます。今年度のFM放送は2016 年7 月から2017 年6 月まで毎月の最終土曜日で一年間です。時間は午前9:35~9:50 迄。

新聞にロータリーの活動が分かる写真記事が載る様PR する等。

地区大会への参加（11 月19~20）東静岡 グランシップで開催

アトランタ国際大会参加登録料

2016 年12 月15 迄 \$340

2016 年12 月16~2017 年3 月31 日迄 \$415

ロータリーカードの加入の推進

My Rotary の登録推進

2016 年規定審議会はクラブ運営に大幅な柔軟性を認めました

これらの決定には、例会の頻度、場所、方法、および会員種類に関する変更が含まれます。

今回の規定審議会の決定により、全てのロータリークラブは例会、クラブの構造、会員種類、について規定審議会が承認した新しいオプションを取り入れてクラブ細則を修正することが可能となります。ただし、これらの変更を加えないことを選択するクラブは、従来と同じ方法を取り続けることができます。

- 例会の曜日と時間を自由に決定する
- 必要に応じて例会を変更または中止する
- 奉仕プロジェクトまたは社交行事を「例会」とみなす
- 直接顔を合わせる例会、オンラインでの例会、その両方を交互に行う例会、あるいは両方の方法を同時に用いる例会（例、直接顔を合わせる例会にオンライン [ビデオチャット] で参加する）のいずれかを選ぶ
- 出席要件、または出席要件を満たさなかった会員の終結に関する方針を緩める（または厳しくする）

クラブは、少なくとも月に2 回、何らかの方法で例会を行う限り、例会頻度を減らすことができます。ただし、各月の最終例会後 15 日以内に月次出席報告をガバナーに提出するという要件は変わりません。

これらの決定は標準ロータリークラブ定款の現行の規定に変更を加えるものではありません。

「思いやりと 寛容の精神」のある「こころ豊かなロータリアン」になりましょう



◆ 謝 辞 ◆

島田ロータリークラブ 北川 正澄会長

生子ガバナー本日はありがとうございました。昨年度、規定審議会で標準ロータリークラブ定款が大きく変わり、それに合わせ各ロータリークラブの有り方も大きく変化しようとしています。そのようなロータリークラブ激動の時期に、国際ロータリー第2620地区のガバナーとして3000余名のメンバーの先頭に立ち時代を切り開いて頂ければと思います。また健康に十分留意し、ご活躍されますよう祈念し謝辞と致します



■ 米山カウンセラー報告

松田 真彦君

平成28年9月3日、米山記念館にて、米山記念事業が開かれました。

当日は、二つの事業で、奨学生たちは、柿田川清掃奉仕に、



ロータリアンは、カウンセラー委員会と昼食と開会式は一緒の後、各々に別れました。

カウンセラー委員会では、中山委員長から、カウンセラーの重要性や役割が伝えられ、アンケート内容の説明がありました。このアンケートは、奨学生とカウンセラーの双方から得たもので、総数292名(56.4%)。

その後、寺戸会員(静岡ロータリー)による卓話があり、カウンセラー体験をお話し頂きました。我々カウンセラーと奨学生とのコミュニケーションの取り方、付き合い方など大変参考になる卓話でした。

カウンセラーとは、人生経験豊かなロータリーが、海外の若者を広い意味で導いて行くことだと述べられました。

奨学生の例会出席は、月一度は必須としても、できる限りにおいて、なるべく例会等の参加を促してもらいたいとの委員会からの進言がありました。一方で、富士宮クラブでは、静岡市の奨学生なので例会参加に片道一時間半も所要するので、月一回以上の例会参加は困難という意見が出され委員長も理解を示した場面もありました。

また、各国の風習の相違での困りごと相談タイムが持たれました。

「イスラム系では、食事の条件とお祈り時間」

「中国系では国内就職にハンディを感じる場合もある」「中国人は敬遠という偏見をクラブ内で持っている人もいる」等ができました。

或いは、生活に困っていないのに奨学金に対する賛否を問うような質問も出されましたが、奨学金は生活補助の意味合いだけではなく、本人の教育、つまり外国の若者をロータリーが育成する意味も重要であることを述べられました。

【参考までに】

柿田川は、長良川、四万十川と並ぶ日本の三大清流で、全長1.2キロという最短の一級河川。湧水量は一日100万トン。以前より減少。

(担当/大塚高君)